



5)「動物の神学」の形成

- ◆ 動物の権利をめぐる議論
- ◆ 動物のための礼拝(1970年代以降)
- ◆ 聖書的動物観の一例
 - ❏ 人間に臨むことは動物にも臨み、これも死に、あれも死ぬ。同じ霊を持っているにすぎず、人間は動物に何らまさるところはない。すべては空しく、すべてはひとつのところに行く。すべては塵から成った。すべては塵に戻る。人間の霊は上に昇り、動物の霊は地の下に降ると誰が言えよう。(コヘレトの言葉3:19-21)

24



- ◆ 「我々が動物にたいして義務をもっているという道徳的には満足すべき解釈は、ある動物解放主義者によって勧められているような、動物をも同等に考えるべきであるという主張に単に留まってはられないのである。イエスの人格によって示されている神的愛という考えに基づいて私は次のように提案する。すなわち、弱者と無防備なものは同等なものではなく、より大きな考慮を与えられるべきである。と、**弱者が道徳的優先権を持つべきなのである**」(A.リンゼイ『神は何のために動物を使ったか—動物の権利の神学』64頁)。

26



日本の事例—動物供養



27



6) 米国・福音派における環境意識の向上

- ◆ 福音派(Evangelicals)とは何か？
 - ❏ 中絶、同性愛問題への取り組みを共有する宗教保守勢力
- ◆ 福音派の従来への態度
 - ❏ 強い終末意識(千年王国思想)のため、環境問題には、まったく関心を示さなかった。
- ◆ 近年の急速な変化
 - ❏ 環境問題、貧困問題などグローバルな課題への取り組みを始めている。

28



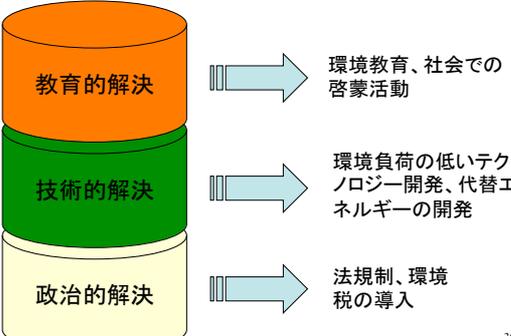
4. 環境倫理をめぐる課題と展望

- 1) 様々な日常的取り組みの必要性
- 2) 自然の生存権への視座
- 3) アニミズムの復権というディスコースに対する批判的洞察
- 4) 世代間倫理(未来世代への倫理)の形成

29



1) 様々な日常的取り組みの必要性



- 教育的解決 → 環境教育、社会での啓蒙活動
- 技術的解決 → 環境負荷の低いテクノロジー開発、代替エネルギーの開発
- 政治的解決 → 法規制、環境税の導入

30



2) 自然の生存権への視座

- ❖ 動物・自然物の権利の拡張
- ❖ 新たな自然理解とアニミズムの違いは？
 - ❏ アウグスティヌス「動物を殺し、植物を滅ぼすのを差し控えることは迷信の極みだと、キリスト自身が教えている。なぜなら、われわれと獣と木のあいだには何ら共通する権利がないものと判断したので、かれは悪霊どもを豚の群の中に入り込ませたのであり、また実を結ばないでいる木を呪って枯らしたのである」

31



3) アニミズムの復権という ディスコースに対する批判的洞察

- ❖ 日本のアニミズムや多神教的考えによって問題解決できるという言説は、ほとんどの場合、歴史の実証性を欠いた文化ナショナリズムに過ぎない。
- ❖ アニミズム的世界観が前提としている自然や動物への「畏怖」を、どのようにして回復するのか。
 - ❏ 手がかりとしての「生物多様性」(biodiversity)

32



4) 世代間倫理(未来世代への倫理)の形成

- ❖ 世代間の生命ネットワークの構築
- ❖ 祖先崇拝との関係は？
 - ❏ アジア的な伝統の活用

33